「「無名戦士」――さういふ言葉を以て新聞通信員の名に冠したい」。

「「無名戦士」の感覚、叡智、視点、機敏、準備が新聞価値を高める要素となる」。

「全国中央紙の地方進出によって地方紙は大脅威を受けてゐるが 「地方」の強味によって最後の一線に踏む止まってゐる 。

本書では、「新聞統合」が本格化する以前の中小ならびに地域新聞社が活発に活動する新聞界や、そこで働くジャーナリストたちの動向を記録・展望する。

大正時代は、日本の新聞にとって、一つの黄金期であった。

新聞紙上では、連日、記者たちが筆をふるい論戦を繰り広げ大正デ モクラシーを牽引。

新聞の読者は、日清・日露の戦争のたびごとに増加したが、大正期に入るとさらに都市化・産業化といった人口変動、1925年の普通選挙法制定による有権者の急速な増加、といった要因も相まってさらに拡大した。

元号が昭和に変わり、1931 年満州事変、1932 年五・一五事件などを経、国内は戦時体制へと変化する。それにともない新聞界も大きな再編の波に飲み込まれた。すなわち、「新聞統合」である。政府は、1937 年頃から地方の「泡沫」新聞社の統合を指示、これにより、明治以来の伝統や特色を持つ多くの新聞社が姿を消した。





編:解題一井川 充雄(立教大学社会学部教授)

造 本- A5 判・上製函・総約 1100 頁

刊 期-2016年7月

前 価─ 40,000 円 ISBN 978 - 4 - 907236 - 55 - 7

【第一巻】約402頁

昭和6年版』 『全国新聞通信網大観 (新聞之新聞社、1931年)

【第二巻】約348頁

『日本新聞社史集成

(新聞研究所、1938年) ※東京・関東・奥羽編

【第三巻】約 350 頁

『日本新聞社史集成』

(新聞研究所、1938年) ※中部・樺太編

川森蘭

*解題・人名索引・新聞紙名索引

『戦時末期敗戦直後 新聞人名事典—附·日本新聞年鑑 1946』(2015 年) ※本書と併用することで、昭和の初めから第二次世界大戦終結直後 に至る時期の日本新聞界の動向やジャーナリストたちの動きを追う ことが可能に。

七社の開

東地方通

信網

置員所在 置員所在 日 青梅

清水

演松、 沿岸

匹、給仕

民

金沢文圃閣

〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30 Tel 076-261-8884 Fax 233-3111

□書店様へ…ありがとうございます 直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より 価格は税別 047/05/4000

【第一巻】各新聞社が地方に配置している通信 網を名前入りで総覧。 1920 年代、新聞が日本社会に定着し、規模が拡大し、企業化が

していくにつれ、販売店、広告主等々から、そうした新聞・ 出版業界の現状を手軽に一覧できるハンドブックへの需要が高 まった。「通信網が各新聞社の秘密の一部で、何れもが、簡易に、 知られ得られない智識」で、「通信員の配置と質と量とを知ら れることを余り好まない新聞社は、特派員等の氏名すら出来る だけ隠そうと」していた。そのような昭和初期に 2,000 人を超 える特派員・通信員の所属、住所、経歴、さらに写真、家族構 成や趣味までが記され、圧巻。

和九年事業を擴張して主筆に藤原

九ポイント、

+ 二段組、

發行地は知取町、

樺太毎日新聞

本社は現社長鈴木清 現務の樺太日報と改題した。

二の經營

郎を任じた。

社長として泊居町

に創刊された。

段組であつた。

間瀬社長

稱東樺日日新聞

其後大正十二

、函館中學の出身である

朝刊であつたが、 每日新聞

後夕刊四

昭和三年十二月七日

(昭和十一年八月二十一日現在)

紅創所

知取町幸町

二、九六七號

【第二卷】【第三卷】 東日本 (樺太~中部地域) における各新聞社の歴史を記載。経営規模が小 さい多くの地方・地域紙も総覧。

本巻収録新聞社の多くは、「新聞統合」で姿を消し現存しない。 紙ですら十分に保存されていない。しかし、ある時代ある 地域において、新聞社が新聞を発行し、 それが読者に購読され ていたという事実は、その地域社会において少なからぬ意味を 持つ。本巻はそうした「新聞統合」が本格化する以前の中小新 聞社さえも包含し、日本新聞界の歴史をまとめたものとして大 いに意義を持つ。東京 31 (うち通信社 12)、関東 21、東北 30、 中部 76、北海道・樺太 31、総計 189 新聞社を収録。各新聞社 の歴史を記載し、関係者の写真も付す。

385 公開し、金観者を歓迎 刷折疊式輪轉機更に してゐる。紙數も急速 でを新築した。十 歌を加へ、昭和十年社 一至った。昭和七年色 下第一を以つて稍する い増加し、文字通り縣 初聞」「大衆の新聞」を したのである。 ットーとし、 由来本社は『正直な 社務を

(昭和十一年八月二十日現在) 番地 月 H

樺

太 H

報

社

H

H

新

聞 社

(東棒日

H

新聞